

【テピアマンスリー今月の話題】2020年3月号

タイのプラスチックごみ削減に向けた動き

2020年1月、タイに在住する筆者の友人のSNSが奇妙な写真で溢れかえった。ある人は大きな買い物かごの中にカップラーメンを、ある人はバケツの中にポテトチップスの袋やペットボトルなどを詰め、コンビニのレジの前に立っている写真だ。中には工事現場用の三角コーンを逆さにしてバッグの代わりにしている人の写真まで出てきた。若干悪乗り過ぎる投稿も多いが、「マイバッグ」の使用をアピールする画像がここまでタイムラインを賑わせたのには理由がある。

1月1日からセブン・イレブンなどのコンビニエンスストアやビッグCなどのスーパーマーケットの多くがレジ袋の配布をとりやめた。店内放送でビニール袋の配布廃止とマイバッグの持参を呼びかけるアナウンスが流れ、バッグを持ってきていない人にはレジ前にある有料の布製の袋の購入を勧めるなど、「完全廃止」の徹底した取り組みだ。

タイでプラスチックごみ削減の動きが本格化しだしたのは2018年のことだ。同年6月、浜に打ち上げられたくじらの胃から大量のプラスチックごみが見つかったことで、一般市民の間にもプラスチックごみ削減の機運が高まった。タイ天然資源環境省(MONRE)は同年「プラスチックごみ管理に関するロードマップ 2018-2030」(Thailand's Roadmap on Plastic Waste Management 2018-2030)を公表。ペットボトル飲料等のキャップを覆うプラスチックシールや、環境とヒトの健康に及ぼすとされ世界的に使用規制が進む、ゴミ袋や食品包装などで使用されるオキソプラスチック、化粧品や洗剤などに添加されるマイクロプラスチックビーズの使用を2019年中に完全廃止し、厚さ36ミクロン未満のレジ袋、発泡スチロール製の食品容器、使い捨てのプラスチック製コップ、プラスチック製ストローについても2022年の完全廃止を目指し、段階的に使用量を削減する目標を打ち出した。

プラスチック使用量削減・廃止およびリサイクル目標

	第1フェーズ		第2フェーズ			第3フェーズ							
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
1. 環境配慮型物質への代替によるプラスチック使用量削減・廃止目標													
1.1 飲料用キャップシール	50%												
1.2 オキソプラスチックを使用したプラスチック製品		100%											
1.3 プラスチック製マイクロビーズ		100%											
1.4 厚さ36ミクロン未満のレジ袋		25%	50%	75%	100%								
1.5 発泡スチロール製食品容器		25%	50%	75%	100%								
1.6 使い捨てプラスチック製コップ		25%	50%	75%	100%								
1.7 プラスチック製ストロー		25%	50%	75%	100%								
2. プラスチックごみリサイクル目標	22%	25%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%			

出所:タイ天然資源環境省(MONRE) Thailand's Roadmap on Plastic Waste Management 2018-2030

こうした政府の働きかけに、小売・飲食分野の事業者も素早く反応。2019年には複数の大手百貨店・スーパーがレジ袋を配布しない日を設け、大手コーヒーチェーンでもプラスチック製ストローの配布を取りやめる動きが始まった。そして2020年1月からはコンビニ最大手のセブン・イレブンなどを経営するCP ALLグループ、バンコク中心部の大型商業施設サイアム・パラゴンやエンポリアムデパートなどを有するモールグループ、セントラル百貨店やコンビニエンスストア ファミリーマートなどを持つセントラルグループなど、大手流通小売事業者の多くが一斉にレジ袋の配布を取りやめたのである。

ロードマップは法的拘束力を持たないため、公表された当初はその実効性が疑問視されていた部分もあるが、2019年8月に死んだジュゴンの赤ちゃんから大量のプラスチックごみが発見され再び社会的議論が巻き起こると、世論の後押しを受けて一気に実現に向け動き出した。筆者の周囲のバンコク市民数名に今回のレジ袋配布取りやめについて尋ねたところ、「不便ではあるが、仕方がないことと理解している」といった肯定的な反応が多かった。タイの前国王ラマ9世が提唱した「足るを知る経済」(Sufficiency Economy)と「循環型経済」(Circular Economy)とは親和性が高く、その意味からもタイ人には受け入れられやすいのだろう。

ここまでの状況をみる限り、レジ袋や使い捨て容器など不要なプラスチック製品の使用量削減に向けた取り組みは、順調なスタートを切ったと言ってよいかもしれない。次なる課題はリサイクル率の向上だ。前掲のロードマップによると、タイのプラスチック廃棄物は年間193万トンでこのうち39万トンのみがリサイクルされている。3Rの概念が未だ定着していないタイにおいて、プラスチックごみは一般廃棄物のなかに混ざって排出されることが多く、選別・洗浄してリサイクルされることなく最終処分されているのが現状だ。

近年、プラユット政権の主導によって廃棄物焼却発電施設の建設が大都市圏で進んでおり、廃棄されたプラスチックの中には最終的にエネルギーの形で回収されているものも少なくない。ただし、こうした廃棄物焼却発電施設の建設・維持運営には一定規模の廃棄物量の確保が必要なことから、すべての地域で導入するわけにいかないのも事実である。ロードマップに定めた目標を達成し、プラスチックごみの海洋への不法投棄や最終処分場でのオープンダンプを減らすためには、やはり国民への3R意識の普及啓蒙が重要になるであろう。消費者側にしっかりとしたリデュース・リユース意識が定着した上で、リサイクルに関する新たな技術導入・技術革新が進むことが、タイ政府の目指す循環型経済の実現に向けた課題である。

(石毛 寛人)